



「秋の風に誘われて～外気浴気持ちいい」

パフテスト心身障害児(者)を守る会

# 愛の手を

第201号

発行責任者  
 社会福祉法人 パフテスト心身  
 障害児(者)を守る会  
 重症心身障害施設 久山療育園  
 重症児者医療療育センター  
 理事長 宮崎 信義  
 編集責任者 中村 晴光  
 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869  
 ☎(092)976-2281  
 FAX (092)976-2172

## 「久山療育園とワークキャンプ」

評議員／仙台長命ヶ丘キリスト教会牧師、ワークキャンプ事務局

金丸 真

「久山療育園ワーク  
 キャンプ開催中止」。こ  
 の知らせに肩を落とした  
 方もおられたのではないで  
 しょうか。今年  
 2020年8月、新型コロナウ  
 イルス感染  
 拡大の影響によって、毎年  
 恒例だった久山  
 療育園ワークキャンプが中  
 止となったので  
 す。

そもそもこのワークキャン  
 プは、197  
 1年8月に、当時コロナ一  
 建設予定地だ  
 った熊本県荒尾市小岱山で  
 第1回目(12人  
 参加)が行われたことから始  
 まり、以後コ  
 ロ二一友の会(現ミットレー  
 ベン・ネットワ  
 ーク)が主催で、療育園のた  
 めに草刈りや大  
 掃除などを行う奉仕のキャン  
 プとして続け  
 られてきました。1989年  
 からはパプ  
 テスト教会の「福岡地方連  
 合社会委員会」と共  
 催になり、利用者の方々と  
 のふれあいや学  
 習会もプログラムに加わ  
 ったワークキャン  
 プとして改めて「第1回目」  
 とし、それから  
 毎年8月に2泊3日で行わ  
 れ、昨年201  
 9年は30回目の記念開催  
 となりました。し  
 かし1989年から2019年  
 まで数え上  
 げてみると、本来であれば  
 31回ははず  
 ずです。なぜ30回なのか。実  
 は1回だけ開催を中止し  
 ているのです。それは「0-  
 157問題」  
 が起こった1996年のこと  
 でした。この  
 年、病原性大腸菌を園内に  
 持ち込むかもし  
 れないというリスクを考  
 えて、ワークキャン  
 プを中止したのです。今  
 回はそれに続いて2回目  
 の中止です。今回も、利  
 用者の方々

の健康といのちを守るた  
 めの決断でした。現在の  
 状況から考えて、来年の  
 開催も未定です。しか  
 し、いつかまたワーク  
 キャンプを再開したいと  
 心から願っています。

なぜなら、このワーク  
 キャンプは、草刈りなど  
 を通じて久山療育園の  
 ために奉仕をするとい  
 うことだけではない、大  
 事な役割を担っている  
 からです。その一つは、  
 子どもたちへの継承  
 です。ワークキャンプ  
 の参加者は年々増加傾  
 向にあり、昨年2019  
 年の参加者は122人  
 でした。そのうち高  
 校生以下は52人です。  
 この子どもたちが、  
 2泊3日のワークキャン  
 プを通して、久山療育  
 園を知り、重症児者  
 や職員の方々とお出  
 会いを通して、毛穴  
 から吸収するように「  
 共に生きる」というこ  
 とを学んでいきます。  
 私たちは、この子  
 どもたちが将来、久  
 山療育園の支援者  
 となることを期待す  
 るだけではなく、深  
 い想像力と隣人愛を  
 もって「共に生きる  
 人」として成長して  
 もらいたいと願って  
 います。また、参  
 加者同士での学び  
 合いも起こっています。  
 小さな頃から毎年  
 参加していた子ども  
 たちは、高校生、大  
 学生、社会人となり、  
 今では自然と子  
 どもたちをリード  
 しています。実に自  
 然にです。そんな姿  
 に大人たちも学ば  
 され、「学び合い」が  
 起こっていきます。  
 このように、大切  
 なことが自然と継承  
 されていく場とし  
 て、ワークキャンプ  
 が用いられている  
 のです。

(3ページ下段へ続く)

## 理念と展望

## 「危機にあっても創立理念に堅く立つ」

理事長 宮崎 信義

新型コロナウイルスの世界的蔓延の危機に際して

新型コロナウイルス（COVID-19）は、中国武漢市付近で2019年に発生が初めて確認された、SARS関連のコロナウイルスに属するものです。「三密」「ソーシャルディスタンス」「東京アラート」など新たな用語を耳に致しましたが、新型コロナウイルスについてCOVID-19は感染症名、ウイルス名はSARS-COV2です。

2019年11月に中国武漢市から始まり世界的流行に至った新種のコロナウイルスです。6種が確認され、一般の感冒に類するものが4種、あとの2種はSARS（重症急性呼吸器症候群）と今回の新型コロナウイルス（SARS-COV2）です。ヒト対ヒト感染を来し、2020年1月28日の閣議決定で「指定感染症」「検疫感染症」とされました。以来増加の一途（現在は第二波）をたどり、2020年

8月下旬では世界の感染者は2,320万人以上、死亡者は80万人以上です。日本では、感染者数は6万3,000人以上（クルーズ船帰宅者を含む）、死亡者数は1,200人以上です。

主なパンデミック（世界的流行）の歴史から、古くは14世紀ヨーロッパの「黒死病」（ペスト）で人口の1/3、1920年「スペイン風邪」（新型インフルエンザ・H1N1亜型）で世界で約5,000万人が死亡と推定。2002年SARS（新型コロナウイルス）が中国で発生しパンデミックとなりました。今回はWHOが新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミック宣言を発表しました。パンデミック（地球規模での大流行）の遠因として、環境破壊、特に熱帯雨林の減少や野生動物と人間とが接近した結果、人対人感染力を持つ新種のコロナウイルスが発生したとも

指摘されています。

3月30日には日本でも東京都を中心に爆発的に感染者が急増し、「密閉」「密集」「密接」を防ぐ「三密」の勧告がなされました。4月7日に「緊急事態宣言」が発令され（5月6日までの期間）、7都府県（東京・大阪・名古屋・千葉・埼玉・兵庫・福岡）が対象とされ、4月16日には「緊急事態宣言」は全国を対象とすると発令されました。病弱な方々ばかりではなく若い層にも重症化がみられ、また生活面でも飲食店・旅行業・小売業の経営や働く方の失業という社会不安の中にあります。8月23日時点での感染者数（死亡者数）は、①世界では感染者数＝2,320万3,532人、死亡者数＝80万4,416人、②日本では感染者数＝6万3,503人（クルーズ船帰宅者を含む）、死亡者数＝1,203人と発表されています。まさに100年ぶりの危機の只中にあります。この危機の只中において、久山療育園はどうあれば良いのかを、創立理念を覚えつつ展望して参りたいと思います。

この危機に際して改めて創立理念に堅く立つ

2020年度第44回の開園祭テーマは「重症児（者）医療福祉計画の刷新と向上を目指して」です。このテーマは2020年の初めに提唱されたもので、未だ新型コロナウイルス感染症の世界的脅威が知られる以前のことでした。これまでも創立理念に私たちは、重症児（者）の生命の尊厳やかけがえのない命と存在、私たち社会に無くてならない人々であることを経済的危機（オイルショックやバブル崩壊、リーマンショック等）にあっても重症児者と共に支えられて参りました。

新型コロナウイルスの蔓延による生命の危機や社会不安の中にあつてこそ、改めて支えられてきた創立理念を思い起こし、理念に堅く立ちたいと思います。「創立理念」は、①設立の目的、②運営基本方針、③療育基本方針から成っています。

まず「設立の目的」から。「重症心身障害児に愛の手を」という精神で設立したことから、重症児（者）の健康と安全を支えつつ、家族も職員も地域も

隣人となることを目指して参ります。「重症児が社会の片隅に收容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置付けられることを願う」ことから、久山町から地域へ、地域から久山療育園へと連携の輪を固めて参りたいと願います。「従って、久山療育園は単なる收容施設ではなく、新しい福祉社会（福祉共同体）づくりの拠点である」ことから、交わりが制限されている中で、参加者数限定ではありませんが公開講座等を通して社会への発信を継続致します。「重症児が社会の片隅に收容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置付けられることを願う」「久山療育園は単なる收容施設ではなく、新しい福祉社会（福祉共同体）づくりの拠点である」ことから、2015年7月に建設された「在宅支援センター」への医療支援を継続致します。また「在宅支援プロジェクト」の最終年度でもありますので、福祉共同体の実現、地域医療連携へ向けて2021年度からのビジョンを策定していく予定です。

次に「運営基本方針」から、「この働きは、社会のただ中で

障害児と共に生きようとするイエス・キリストの愛の証しである。従って、久山療育園はキリストの福音を土台として運営されなければならない」「ことを確認しつつ、「親の会の三原則」とも呼称して、平和(キリストの平和)の地こそ重症心身障害児(者)の居場所となることを証して参りたいと願います。また「久山療育園はキリストの福音を土台として運営されなければならない」とから、「重症児者と共にあるミットレーベンネットワーク(旧コロニー友の会)やボランテニア会、保護者会及び地域や諸教会との協働によって園の正しい方向が維持されると確信致します。

更に「療育基本方針」として、「久山療育園は、病院であり学校であり家庭である。われわれは対象者を技術論的にではなく、全人的にとらえる。そのため、それぞれ最善の職的協力を進めることによつて、その専門的領域の働きを全うしなければならぬ」とから、「久山療育園の療育」の再確認と医療マインドに基づく生命の尊厳を支えること、OOL(生活の質・生命の質・

人生の質)を重視していくことは言うを待ちませぬ。

近江学園・びわこ学園の創立者である糸賀一雄先生が、「この子らに世の光を」とはなく「この子らを世の光に」との言葉を残されました。そして、「人間が人間を見る価値観は、精神薄弱と言われたり、重症の障害児といわれる人々の存在を通して、新しく創造されつつあるのだ。」と結んでいきます。

久山療育園も賜物の協働とその働きにおける職員の自己実現を重視しています。パプテストの職員研修では「現場で聖書を読むことが大切」と教えられました。重要な聖句をお示ししたいと思います。

コリントの信徒への手紙Ⅰ 12章21〜22節(キリストのからだ)では、「目が手に向かつて「お前は要らない」とは言えず、また、頭が足に向かつて「お前たちは要らない」とも言えません。それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分か、かえって必要なのです。」この調和が家族、そして地域から世界へと向けられていくことを望んでいます。また創立聖句である、コリ

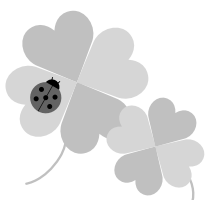
ントの信徒への手紙Ⅱ 4章18節「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」や、ローマの信徒への手紙8章28節(神の計画)「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています。」から、私たちは神のご計画への参画と救いの計画の成就に希望を抱いて参りたいと思えます。たとい、今の時が危機の時と思えても。



\*表紙「巻頭言続き」

また、このキャンプは「立ち止まって共に考える場」も大切にしてきました。利用者の方々とのふれあいの時も楽しみながら、同時に保護者の方々のお話をうかがう時をもつことで、多くのことを学ばれています。また2006年のキャンプでは、当時の「障害者自立支援法」の問題点について学び、それは「いのちに優劣をつけないために」障害者自立支援法を問う」という運動に発展していきました。2011年のキャンプでは、同年発生した東日本大震災を覚え、被災状況と支援活動を聞く時をもちました。それを受けて、福島整肢療育園と宮城県亘理町の仮設住宅の方々へ大きな寄せ書きを作成し、祈りを届けました。そして2019年のキャンプでは、2016年に起こった「津久井やまゆり園事件」について、改めて痛みをもつて共に考えました。このように、私たちはキャンプの中で「立ち止まって共に考える」のです。そしてそれは、「共に生きる」運動を深化させていくものだと思っています。

しかしながら、この大切なワークキャンプも、職員の方々の深い配慮とご協力なくしては成り立ちません。職員の方々に本当に感謝いたします。そして私たちが受け入れてくださる利用者の方々にも心から感謝いたします。これからもこのワークキャンプが用いられていきますように、ぜひお祈りください。



人のからだと病氣

## 「咳—その知られざる正体」

センター長／理事 岩 永 知 秋

## ■咳は最も多い症状

病院やクリニックに来る患者さんの症状で、最も多い症状は何でしょうか？発熱や腹痛、などいろいろな答えが返ってくるそうです。でも実はその答えは、咳なのです。

コロナウイルスによる新型コロナウイルスでは、呼吸器症状、とりわけ痰を伴わない咳が重要な症状の一つです。電車などで咳をすると、新型コロナウイルスをうつされるのではないかと、周囲の人たちの痛いほどの視線を感じるようでした。これではうっかり咳払いもできないと、私のような喘息持ち（といっても軽いですが）にはつらい日々です。私は呼吸器内科医として週1日、国立病院機構福岡病院の外来診療を続けていますが、私が長く診ている呼吸器の患者さん方も全く同様のことを言われます。コロナ感染症には早く終息してもらいたいと思うた皆さんの理由の一つです。

さて、咳はどうして出るのでしょうか。本来から言えば、気管支の中にたまった痰や外から入ってきた異物を、気管支の外に出すためだと考えられています。これには脳の中で、大脳よりも下位の延髄と呼ばれるところにその中枢があり、いわば神経反射のような形で生じるものと考えられます。でも、咳って自分の意志で出すこともできるし、部分的には自分の意志で抑え込むこともできますよね。また、精神的な問題から咳が出ることも知られていて、これは心因性の咳と呼ばれます。つまり、咳は神経反射だけでなく、その発生には大脳も関係していることから、そのメカニズムは複雑なものになります。

## ■私の咳体験

私は小学校に入学する前後から気管支喘息があり、普通の人たちには気候の良いすが

すがしい季節である春、秋に、喘息の発作でよく悩まされました。医師になる際、専門として呼吸器内科を選んだのも、喘息で悩まされた過去、そして心配をかけた母への恩返し気持を潜在意識として持っていたからかもしれません。そういえば私の出身教室である呼吸器内科の先輩方には、私が知っているだけでも数人の喘息持ちがいました。私は、小学生の頃はソフボール大好き少年でしたが、野球部のない中学に入学したため、サッカー部に所属するようになり（東京オリンピックや釜本選手の活躍の影響もあるでしょう）、身体ができるとともに病院を受診するようになる発作はなくなりました。ぜい肉中背の現在の姿からは想像もできないでしょうが、ソフボール部とサッカー部で主将を務めていました。今でもごくたまに軽い症状が出るのですが、面白いもので、子供のころは症状としてゼーゼーヒューヒューという音が出る喘鳴が主だったのが、30歳過ぎからはから咳に変わりました。このような喘息は今では「咳喘息」と呼

ばれています。これもれっきとした喘息の仲間です。最近、外来診療をしているとそのような患者さんが増えてきたような気がします。咳喘息も喘息の一種ですから治療法も同じで、吸入ステロイド薬の服用が基本であり、これに気管支拡張薬を併用（配合薬）する治療が今では一般的です。薬物療法の発展によって、喘息で入院したり、救急外来を受診したりする患者さんは近年激減しました。

## ■咳の種類はいろいろ

咳の分け方にはいろいろありますが、まずその起こり方として急性、遷延性、慢性という3つに分けられます。「急性」の咳は3週間以内におさまるもので、その原因はウイルスやときに細菌といった感染症によるものです。いわゆる風邪ひきのほとんどはウイルスによるものです。ウイルスを原因とする感冒は放っておいても自然によくなるものですが、今度のコロナウイルスはそれらとは全く異なりますね。2つ目は3週から8週間くらい咳が続くもので、「遷延性」の咳という言葉があてられ

ています。さらに3つ目ですが、8週間以上続くものを「慢性」の咳と分けています。持続期間が長引くほど、いわゆる感染症の可能性は小さくなっていきます。また、痰を伴う咳か、伴わないから咳かといった分け方もあります。痰を伴う咳は細菌感染症や気管支喘息、COPD（慢性気管支炎のタイプで痰が多く出ます。肺気腫のタイプでは痰は多くありません。）でみられることが多い一方、空咳は間質性肺炎、ウイルス感染症、咳喘息に多い、といった具合に、痰の有無は咳の原因を推定するとき、役に立つことがあります。それでは咳の仕方では病気の種類がわかるのでしょうか？実はこれは難しいのです。百日咳のようなスタカット、あるいは犬の鳴き声のような咳というように特徴的な咳は例外です。咳の仕方だけで原因を知ることは難しいのが実情ですが、咳の出る時間帯、その誘因、随伴症状（痰、喘鳴、発熱、呼吸困難など）を詳しく問診で聞き取ります。そのうえで、呼吸機能検査、胸部画像検査、採血検査などを行い、問診内容を総合して診断に至

ります。  
 難しいとは言いましたが、たまには私にもわかることがありました。それは昔、落語家の故桂歌丸さんが羽田空港の待合室にかけておられるところに偶然に遭遇したときです。歌丸さんに関する事前の知識はなかったのですが、咳をされる様子から、このかたはCOPD（肺気腫）を患っておられるのだな、と何となくわかりました。

■慢性の咳には

慢性の咳は、先に述べたように、8週間、つまり2か月以上続く咳を指します。長く続いている咳ですから、細菌やウイルスによる感染症の可能性はかなり低くなります。頻度から言えば、わが国では慢性の咳の半数は気管支喘息と報告されています。これはゼーゼーヒューヒューといった喘鳴や痰を伴わない、空咳が主体の「咳喘息」が多くを占めます。ですから、長く続く咳を見るとき、喘息をまず疑って診断を進めていく姿勢が必要です。そして、咳喘息も気管支喘息の一種ですから、基本的な病態や治療法は通

常の喘息と変わりません。そのほかの慢性の咳には、副鼻腔炎(蓄膿症)、逆流性食道炎、アトピー咳、心因性の咳などがあります。

それとともに大切なことがあります。頻度はずっと少ないのですが、長く続く咳には重要かつ重篤な病気が隠れていることがあります。その筆頭に來るのが肺結核と肺がんです。この2つの病気はそれが見えたらまず結果を考えれば、できるだけ早く見つけ、治療に持ち込む必要があります。いずれの病気も、胸部画像の検査と喀痰の検査が診断のために重要です。

咳は最もありふれた症状の一つであると感じました。しかし、頻度は少ないものの、難治性の咳(なかなか治らない原因不明の、長く続く咳)があるのも事実です。いろいろな人がいろいろなことを言っており、またいろいろな薬が試されていますが、まだ解明には道遠しと思われる咳があるのです。咳はありふれた症状ではあるものの、まだその全容の理解には至っておらず、その診療には奥深いところがあるなどいつも感じています。



明治時代の自由律俳句の旗手、尾崎放哉さんの句をご紹介して、今回の終わりといたします。  
 「咳をしても一人」。

来年度7期生を募集する  
 「重症心身障害認定看護師研修」について

重症心身障害児(者)看護の専門性を高める目的で始まった重症心身障害認定看護師研修会(日本重症心身福祉協会主催)は、この九州地区でも平成25年より当施設が事務局となり、九州にある重症心身障害施設が中心となり研修会を行っています。

キルアップにつながる新たな研修の開催も検討されています。

今後も認定看護師の教育機関として重症心身障害看護の専門性、研修の充実、広報活動を行って行こうと思います。  
 (看護部長 吉本法生)

昨年7月からは第6期生の研修を行い、沖繩、鹿児島などから18名が参加しました。これまでの資格取得者は九州、沖繩の全県に渡り70余名となりました。

その6期生の皆さんは、最終の論文提出も終了しましたが、コロナ・ウイルス感染拡大防止対策のため県を超えての移動の規制があり最後の修了式が実施できなかった事はたいへん残念でした。

このような課題を踏まえて、7期については各運営委員と検討し、オンライン研修も含め来年7月に開催することが決定致しました。また、協会では資格取得者のさらなるス



# 『新型コロナウイルス感染症 流行下での在宅支援』

地域療育部長(重症者ホームひさやま施設長) 金子政彦

コロナ下での在宅重症児・者の現状

久山療育園の現場では昨年度末から今年度、現在に至るまで、新型コロナウイルス感染症対策に日々取り組んでいます。職員一同、気の抜けない緊張した日々を過ごしています。在宅重症児・者のご家族も同様のことと思います。

8月に入り久山療育園通所でも、より身近に感染症流行の影響が始めました。事例ごとに必要に応じて保健所と連携しながら、発症日の確認、濃厚接触者の把握、速やかな情報収集、健康観察期間の設定、利用者ご家族、各関係機関への連絡などを行い、感染拡大防止に取り組んでいます。

改めて述べることもありませんが、在宅の重症心身障害児・者の方々は、感染のリスクがある中、あえて人混みの中に出るような生活はされています。むしろ普段から健康や体調管理に高い意識を持って、感染症には注意を払った生活をなさっています。

在宅重症児・者の方々は、ご家庭での日常生活を継続するために地域で様々な在宅系サービス(訪問看護・居宅介護・日中活動・短期入所など)を使っておられます。どの方も複数の事業所と(比較的濃厚な)関わりがあります。そのつながりなしでは生活が成り立たないといってもよいでしょう。

## 感染対策の難しさと課題

今回の新型コロナウイルス感染症は、その生活や命を支えるためのネットワークのつらさを拡大させる恐れがあります。そう考えると今回の流行は、ひとつの事業所だけが感染対策を万全にしたとしても食い止めることができません。事業所の職員、利用者ご家族の感染対策の徹底はもちろんですが、関係する施設間でも情報を共有し、地域全体で感染対策に取り組む必要があります。

仮に誰か一人の発症だったとしても、その方につながっている人は何倍、何十倍といらっしやいます。感染拡大防止の観

点から言うと、発症者が出た時点で発症日や感染経路の確認、濃厚接触者の特定を速やかに、場合によっては隔離・健康観察をしていく必要ができません。重症児・者の命を守っている支援者のつながりが機能停止してしまうことさえありえます。そうならないためにも日々の感染予防の実践が求められています。

## 久山療育園の取り組み

在宅支援サービスの中で最も要望の大きなものは短期入所サービスです。久山療育園と重症者ホームひさやまの短期入所は、4月7日の緊急事態宣言から約2か月間、受け入れ中止を余儀なくされました。久山療育園の短期入所は、基本的に病棟内で入所者との交流があり、感染対策上個室対応できる病床が限られています。そのような居室(短期入所病床)の構造的な要因もあり、短期入所と感染対策を両立することに苦慮しています。

しかし、園内の協議では、感染対策に配慮しながらできる限り短期入所の受け入れを行っていただく必要があるという意見がありました。市中の感染状況を確認しながら、7月1日からひかり棟個室一室と重症者ホームの

居室一室を再開しています。「ソーシャル・ディスタンス」と「密な関わり」という正反對のことを、どちらも大切なこととして両立させなければならぬジレンマに、施設関係者はもちろん在宅生活者の皆さんも苦しんでおられることと思います。感染対策上距離をとることは必要ですが、重症児・者にとっては息遣いを感じ取れるほどのいわゆる「密な」関わり(看護、介護、教育、活動)もまた、生きる上で必要です。

久山療育園通所としては、利用者が必要なサービスはできる限り継続することを念頭に、これまで園内感染対策委員会と連動し、市中の感染状況を踏まえて段階的に感染対策に取り組んできました。職員の標準予防策の徹底(写真①)、3密を回避するための換気、パーテーションの設置(写真②)、清潔区域の設定(写真③)、備品消毒の徹底、送迎時乗車前の検温などを実践してきました。

## 今後に向けて

2020年度も半年が過ぎました。手探りの取り組みの中、ここまで多くの利用者やご家族、関係者、職員のご協力のもと、なんとか日々の業務が



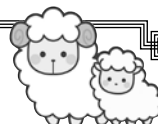
写真①、②) 通所第1療育室入り口、検温、体調チェックセット

写真③) 通所パーテーション

写真④) 通所清潔区域

継続できていることに感謝いたします。そして感染を拡げないために、私たちが今できることをよりいっそう意識したいと思います。具体的には標準的な感染予防対策を丁寧に、継続して行うこと。健康状態に関する情報を共有すること。体調不良の際は無理をせず、周囲の関係者に伝えること。万一発症者がした場合には、情報の収集・整理・分析・開示(個人情報には十分に配慮します)と、対策の方針説明をできるだけ速やかに関係者に行うこと。

どれも基本的なことですが、日々の生活を周囲の人々のことに気を配りつつ、感染予防策としてはできることを丁寧に、こつこつと取り組んでいくことの大切さを改めて感じています。そして久山療育園が、人の温かさを感じとれるほどの距離感で、在宅生活者の方々の「よい相談先」、「よい集いの場」となれるよう、職員一同、力を合わせていきます。一刻も早い感染症流行の終息を祈ります。



園内託児所

「In the Pool」

楽しいプール遊び

今年で園内託児所も3年目に入りました。子供たちも大きな怪我や事故もなく、毎日元氣いっぱいに登園してきています。

7月に入り暑さも本格的に厳しくなり、子供たちが大好きなプール活動が始まりました。

保育者がテラスでプールの準備をしていると、窓越しから顔をのぞかせ、まだかな?まだかな?とわくわくドキドキ。

プール前の準備体操も保育者のまねっこをしながらしています。一歳児さんはダイナミックにプールに入り顔に水がかかってもへっちゃらです!!

水鉄砲で遠くに飛ばして遊ぶ子供や好きな玩具を使い水を出し入れたりごっこ遊びを楽しんだり、また子供同士で玩具の取り合いなどがあると『貸して』と相手に言葉にして伝えてる姿も見られます。

0歳児さんは初めてのプールで少し怖がっていましたが慣れてくると自らプールの中に入り水の感触を楽しんだりお友達との遊びを見よう見まね遊ぶ姿が見られました。

また来年もプール活動が楽しみだね!!  
(託児所保育士 石橋瑛織)



ミットレーベン・ネットワークからのお知らせ

「共に生きる」を喜ぶ 会長 伊原幹治

今、全世界が新型コロナウイルス・ウイルス流行の渦中にあります。今から100年前にも「スペイン風邪」が流行して、多くの人たちが亡くなりました。世界は今、温暖化などの環境問題、富の偏在による経済格差、そして難民問題などを抱えています。それらにどのような影響を与えるかが心配です。

今まで、私たちは集まることによって互いを喜び、話し合いを通して、共に何かを作り上げてきました。しかし、今は「距離 distance」を取ることを求められ、「密」を避けることが求められています。そのため各地で様々の活動が中止に追い込まれ、問題への対応が遅れが生じています。また、マスクをすることで、音声や表情が相手に伝わり難くなり、互いの意思の疎通が妨げられています。

私たちは「ミットレーベン(共に生きる)」を掲げて活動するボランティア組織です。重症心身障がい児者の方々に手を差し伸べ、久山療育園を支援する活動を行っています。それが十分に出来ない状態にあります。

天神で行っている毎月の街頭募金は3月から中止しています。夏のワークキャンプも中止となり、今年も、子供たちの歓声を聞くことができませんでした。そして、11月の「久山デー」も中止を決定しました。ただ年末の街頭募金に関しては、感染状況の推移を見、12月の中旬に決定することにしました。

久山療育園の働きは、「孤立化」と「分断」の傾向にある社会に抗うものであり、私たちは「共に生きる」を掲げてそれを支援しています。1日も早いコロナ・ウイルスの収束が待たれます。

なお、本年度もTシャツを作成しました。色は白、1枚1,000円で、XL・L・M・Sサイズがあります。事務局(野方キリスト教会 092-1811-7944)までお問い合わせください。なお、久山療育園窓口でも販売しております。

## 火曜集会の現場から

「神様にマスク？いる？」

毎週火曜日の17時10分から17時50分まで、久山療育園のチャペルで行われる「火曜集会」は、1976年の開園時より、久山療育園の運営方針の土台である「キリストの福音」について学ぶ聖書集会として継続されている職員による祈りの集会です。メッセージは歴代理事長以下、職員自身が分担して行ってきた時期を経て、2019年度からは月初めの宮崎理事長のメッセージ以外に、諸教会の牧師先生や学校で聖書について教えている教育職の方々に毎週ご来園頂き、聖書に学んでいます。8月の最終火曜日の火曜集会では、西南学院小学校聖書科教員の松藤真奈奈先生（福岡西部バプテスト教会）をお招きし、『私たちの弱さのところへ飛び込んだ神』と題するメッセージに学びました。お話のはじめに、『神様にマスク？いる？』と書かれたフリップが示されて、コロナ・ウイルスが蔓延し続ける毎日に暮らす私たちみんなが感じ続けている、「これで良いのかな？」という疑問の解決の糸口を分かりやすく示してくださいましたように感じました。

マスクで表情が隠され、隣の人の感情が読み込めないもどかしさは、とりわけ障がいをもって暮らす人を不安にしており、私たちはいつもお互いに心で通じあうために、早くマスクの壁がなくなつて欲しいと願いながら、側にいる神さまの存在に気付いていこう、と

励まされた思いがしました。

聖書はマタイによる福音書18章21節からの「仲間を許さない家来のとええ」から、「ステイホームの世の中になり、これまで出来ていたことができなくなり、みんなが『できない人』になったが、その苦しみから人には助けが必要なこと気づいた。だから最悪の出来事の場合に自分から来てくださった神の姿としてのイエスに励まされて、わからない明日を苦しみでなく、わからないことは希望があることだととらえてゆきましょう」と呼び掛けられ、出席職員へ大きな投げかけをして頂きました。

昨年、絵本「あらしのよるに」ひみつのともだち」を題材に、共に生きることへのメッセージをくださったからちようど1年。今年も優しさ溢れるお話に、大きな感謝を覚えた時間となりました。

（法人事務局 担当課長 馬原哲治）



## 各部の働きのご紹介

## 薬局 便り

薬局業務のご紹介です。薬局は今年9月より、藤・岩下・松尾の3名体制（共に薬剤師です。）で新しいスタートを切りました。

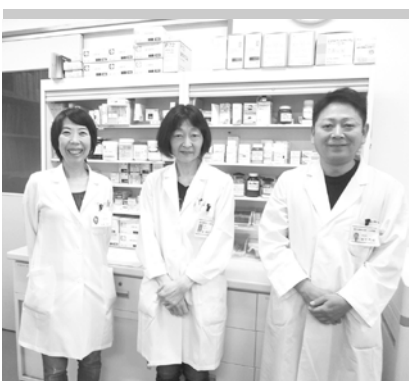
薬局の主な業務は、医師からオーダーされた処方箋を基に薬剤を正しく調剤する事です。その他にも医薬品の発注や管理、患者さんへのお薬の情報提供、入所者の定期薬のセッティング等の業務を日々行っています。今年の8月3日から、電子カルテ（オーダーリング）システムの運用が始まりました。それまでの医師による手書きの処方箋から、薬局設置の印刷機から印刷された処方箋での調剤へと移行しました。これにより、記載された処方内容が読み易くなり、又電子カルテ上からオーダー歴等が確認出来るようになり、業務効率が上がりました。

8月末に退職された大坪先生（今年の4月で御年81歳のベテラン薬剤師です。）についてご紹介させていただきます。大坪先

生は久山療育園に約20年と5カ月間勤務されました。常に前向きで知識豊富、ユーモアに溢れ、その豊饒たるお姿（まさに豊饒という表現がぴったり）に私達は驚かされてばかりでした。どうすれば薬局業務がスムーズに行えるか、いつも念頭に働いておられ、薬剤師として、又人生の大先輩として、大切な事をたくさん学ばせて頂きました。感謝の気持ちでいっぱいです。

感染症の流行や自然災害の発生等で心配事が絶えないご時世ですが、困難な事に直面しても慌てずどっしり構え、大坪先生のようにみんなに慕われる薬剤師に、そして頼りになる薬局を目指したい、薬局一同そう願っています。

（薬局主任 藤壽美子）





ご協力ありがとうございました

(2020年6月1日～8月31日) 敬称略

【法人】

一般献金

安部聖子、飯田節子、池田哲郎、いのちの冠福岡教会、入山秀美、植村美千代、牛房恵美子、栗田昌直、壽福ムツ子、添田次郎、手作品売上げ、奈須匡隆、日本基督教団福岡南教会婦人会、野田紘美、姫路城西キリスト教会、豊前キリスト教会、宮崎信義、牟田逸雄、牟田米子、恵キリスト教会女性会、山口正夫、嘉久明子、吉村敏彦子  
(以上3, 616, 750円)

【重症者ホーム】

一般献金

自動販売機売上献金、井手伸昌、梅木光男、久山療育園献金箱  
(以上120, 741円)

【施設】

一般献金

高瀬孝介、鳴戸健太郎、松尾国利、安河内智幸、山本三桂  
(以上60, 500円)

献品

猪城吉(ぞうきん)、入山秀人(布マスク)、梅田淳子(布マスク)、大原信幸(マスク)、岡本好枝(はがき)、(糊)誉(次亜塩素酸ナトリウム)、九州納豆組合マルキン食品(糊)納豆、合屋勉(はがき)、コカ・コーラボトラーズジャパン(糊)ジュース、古賀バプテスト教会(手作りゴミ箱)、鮫島有美子(CD)、志村バプテスト教会(タオル)、西南女学院

中学校・高等学校宗教部(タオル類)、高瀬寛(ドライヤー)、日本バプテスト仙台基督教会女性会(タオル)、野田正紀(乳幼児用バギー車)、原尚美(手作りマスク他)、宏洲整形外科医院(布マスク)、福岡ソフトバンクホークス(糊)レプリカユニホーム、福岡第一ライオンズクラブ(布マスク)、松尾貴光(手作りマスク)、松尾勇一(紙オムツ)、松川寛(絵本)、村口ひとみ(食食用エプロン)、恵キリスト教会女性会(手作りエプロン)、安井洋子(食食用エプロン他)、山崎和樹(はがき)  
(以上9, 660円)

2020年度クリスマスについて

12月16日(水)に予定しております「入所クリスマス」、12月17日(木)に予定しております「久山療育園クリスマス(燭花礼拝、聖歌隊)」、12月18日(金)に予定しております「通所クリスマス」につきましては、10月20日現在、その実施と開催形式を担当部署において調整・検討中でございます。たいへん恐れ入りますが、案内を今しばらくお待ちいただくか、直接お問い合わせくださいますようお願い申し上げます。



メモ帳

【7月】

- ▽4日 認定看護師研修運営会議
- ▽13日 臨時感染対策委員会▽17日 誕生会
- ▽22日 臨時感染対策委員会
- ▽26日 保護者役員会▽30日 福岡特別支援学校終業式

【8月】

- ▽17日 臨時感染対策委員会
- ▽21日 誕生会▽26日 福岡特別支援学校始業式
- ▽28日 第2回理事会

【9月】

- ▽4日 消防設備点検(全館)▽9日 保護者役員会との懇談会▽11日 入所敬老の集い
- ▽12日 認定看護師研修運営会議▽18日 臨時感染対策委員会▽23日 第44回開園祭感謝礼拝
- ▽25日 婦人科検診(職員)

職員の異動

(2020/7/1～9/30)

【採用】

- ▽永藤七巳子(療育員)7/1付
- ▽能登原充幹(看護師)7/20付
- ▽小倉 潤二(調理師)9/1付
- ▽福原 知弥(事務員)9/1付
- ▽中野 和彦(看護師)9/14付

【退職】

- ▽大坪 恒之(薬剤師)8/31付
- ▽中岡 孝子(療育員)8/31付
- ▽清水 敦子(看護師)9/30付
- ▽田中 愛(看護師)9/30付

## ひかり棟より



暑い夏にぴったりな喫茶活動で利用者の皆さんもこんな時期ですが夏を感じる事ができ良かったです。  
(ひかり棟介護福祉士 大塚菜奈)

## アイスクリーム屋さんオープン

8月25日ひかり棟にアイスクリューム屋さんがオープンしました。

アイスクリュームショップ店員に扮した職員が利用者のところまで行きオーダーを受け運ぶといったようにソーシャルディスタンスを守りながら楽しく行いました。利用者の皆さんもアイスにチョコや生クリームをかけたお菓子をのせたりと自分好みのアイスを注文されていました。皆さんおいしそうに食べられていました。

## なないろの会

敬老を迎えられた方々をなないろの会という形で敬老のお祝いを行っています。今年ホールに集うことが難しいため、各病棟でのお祝いになりました。

ひかり棟では、77歳の喜寿を迎えられた勝利さん、ミヨ子さん、70歳の古希を迎えられる豊さん、67歳を迎えられた光男さんのお祝いをしました。

77歳、70歳を迎えられた方々は紫のチャンちゃんコ、光男さんはスーツを着てお祝いの席に出席されました。厳かな式典では、皆さんの前でトロフィーの授与が行なわれ、一人一人の方のお祝いをする事が出来ました。祝会では、紅白饅頭をひかり棟の皆さんと一緒に食べられ、笑顔いっぱい、おなかもいっぱい、なないろの会の方々の益々の健康をお祈りしてお祝いの宴を過ごすことができました。  
(ひかり棟 サービス管理責任者 古賀クミ)



これからもお元気で！

## 秋を感じるサークル活動

現在ひかり棟では様々なサークル活動を実施しています。今回は秋を感じる活動をご紹介します。と思います。

秋といえば思いつくのが「お月見」ですね！お月見にはきれいな満月とおいしそうな月見団子が必要不可欠！ということで、作っちゃいました。まずは画用紙でできた月や雲をペタペタと貼りまして、次にお団子です！今回お団子にはふわふわの綿を使用してみました！ちぎって握って丸めて、綿のふわふわな感触を楽しみながらお団子を作りました。

また「○○の秋」という言葉をよく聞きますが、「音楽の秋」と「読書の秋」をテーマにした活動も行いました。「音楽の秋」では普段なかなか触れることのない色んな種類の楽器を準備



して、みんなで演奏会です。曲目は「虫の声」「トンボの眼鏡」「森のくまさん」などの秋らしい曲をピックアップしてみました♪きれいな楽器の音色に皆さん思わずうっとりです。「読書の秋」ではいつもの絵本読みとは違った雰囲気でお話を開催しました。お部屋をすこしだけ暗くして、皆さんはソファやビーズクッションに座ってリラックス。読み聞かせに合わせて、ピアノの伴奏もついています。みなさん集中して聞いてくれましたので、こちらも楽しく秋を満喫できました！  
(ひかり棟保育士 佐藤有似子)

# めぐみ棟より

## ☆スヌーズレン☆

暑い夏！お外には行きにくい時期になり、室内で利用者の方たちと様々な活動を楽しんでいます。  
8月22日(土)にめぐみ棟 S C R でスヌーズレンと絵本の読み聞かせを行いました。

室内には複数のドーム型ライトを置き天井や壁にピカピカ☆くるくる☆光が当たっています。加奈子さんはその光を目で追ってあちらこちらをキョロキョロしてとても興味を示していました。又読み聞かせでは『ブレイメンのおんがくたい』を B G M 音楽も取り入れ楽しく読むと絵本をジッと見つめお話を真剣な表情で聞いていました。

部屋全体が光と音楽でいつもとは違った空間になり30分間楽しいひとときを過ごしました。同室者も目をぱっちり

と開け一緒に楽しんだ様子でした。

次回の活動も楽しみにして下さいね☆  
(めぐみ棟介護福祉士 久芳千鶴)



## 敬老の集い

### 『久山なないろの会』

暑い夏も過ぎ、9月に入り風も心地よくなる秋がやってきましたね。

9月11日にめぐみ棟で今年も敬老の集い『なないろの会』が行われました。

めぐみ棟では今年還暦になられた鉄也さんを含め5名の方が対象者です。

広いD A Y R O O M に集まり、みんなの見守りの中センター長からお祝いのトロフィーをいただきました。今年から還暦になられた鉄也さんは赤いちゃんちゃんこと帽子をかぶりニコニコ笑顔で参加していました。その後なないろの会入会にちなんで若かりし頃からの写真のスライドをみんなで見賞しお祝いしてもらいました。終始嬉しそうに参加され楽しいひと時を過ごされている様子でしたよ。

これからも元気いっぱい過ごして、楽しく穏やかに活動や生活をみんなで送っていきたいと思います。

(めぐみ棟保育士 田崎加奈子)



# 通所で頑張っています



## クリーン活動をしました！

先日、通所の活動でクリーン活動週間を実施しました。各曜日、色々なところを綺麗にさせていただきました。まずは療育園の周辺のごみ拾い。色んなゴミが落ちていました。みんなでゴミを拾った場所をマップに載せて成果を実感。次は、送迎に使用している車両を洗車。雑巾を使ってピカピカに！楽しくお話しながらの作業に利用者の皆さんにも笑顔が多くみられました。

心もスッキリ気分です。今後もぜひ継続して取り組んでいきたいです。

(通所療育主任 吹田智美)



# 色んな感覚！ 氷あそび



通所では様々な分野の活動を提供しています。今回のテーマは「感覚遊び。」

氷を使って色々な感覚を感じて遊びました。ノコギリやトンカチを使って氷を削り、氷から伝わる振動を感じたり、ひんやり冷たい感触などを楽しみました。普段なかなか体験することの出来ないダイナミックな感覚活動…色付きの氷が見る見るうちに小さくなっていきました。

(通所サービス管理責任者 古賀公俊)

黄色の氷を叩いています★



ノコギリでザクザク切ったよ！



トンカチでトントン…段々ちいさくなってきた



### 飴玉で綿菓子づくり

蝉の合唱が終わり暑さも少し和らいできた9月下旬、グループホームの日曜日はゆっくりと始まりました。「今日は何をしましょうか?」食事の後、皆さんに問いかけると「映画?」「しゅん:「散歩?」「うん:「綿菓子はどうか?」「うん!皆の笑顔と期待が溢れています。」

午後からは学生さんも参加。「桃の味?」「パイナップル?」「リンゴ?」「レモンでいいの?」一緒に綿菓子の味を迷いながらも指さしながら嬉しそうに選ばれていきました。選んだ飴玉をコロコロと1粒入れると一瞬でフルーティな香りに包まれフワッと出てくる飴の糸を見て興味深々職員や学生さんと一緒に作ったり、自分で棒をクルクル回して綿を作ったりしてお店の様にフワフワとまではいきませんでしたが、可愛い綿菓子ができました。出来立てのフルーティな綿菓子を満面の笑みで皆さん口一杯に頬張って楽しいひと時を過ごされました。次はどの味にしようかな(笑)

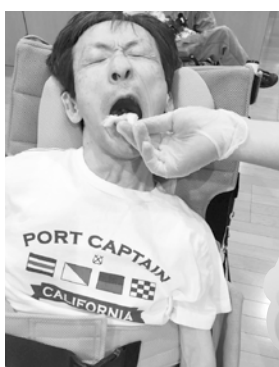
(重症者ホーム 保育士 原田太二)



美味しく作ってね~



結構難しいけど、楽しいね!



フルーツ味の綿菓子!!  
おいしいな



藤田 英彦

「むしろ、からだのうちでより弱いと思われる肢体が存在することが、かけがえのないことなのである。」  
(1コリント12章20節・岩波版・青野訳)

『朝日新聞』9月30日朝刊1、2面に大きく「コロナ世界死者100万人」「たった9か月 社会の変化数年で1世紀分にも」と報じられた。

わが久山療育園は、これまで「ミットレーベン(共に生きる)」を合言葉に、重症心身障害児(者)施設として、ある意味で輝かしい働きをしてきた。推進母体として篤い活動をしてきた「バプテストコロナー友の会」は、活動開始50年を期し伊原会長の提案で、ボランティア活動は最早バプテストだけでなく大きく広がっていると、ミットレーベン・ネットワークの名前で新しく活動しようとした途端に、瞬間に世界中に広がったコロナ渦によってクラスターの危険から、ボランティア活動は出来なくなり、毎月の街頭募金は中止となり、毎年泊まりがけの集まりで汗を流し、ミットレーベンのTシャツを貰うのが楽しみだったワークキャンプも出来ず、秋に賑わった開園祭もボランティア表彰者や勤続職員他関係者のみ肅々とした礼拝で解散となった。

この時に、私は、今もその時のまま理

事長室に掲げられていると思うが、確か1976年6月に建てられた久山療育園の定礎式に刻まれた文を思い起こす。それには、「私たちは今、全能の神を礼拝し、主イエス・キリストの限りない愛とまなざしの中でこの所において重症心身障害児(者)の開かれた人生が始まることを願って、バプテスト心身障害児(者)を守る会、久山療育園の礎石をここに据えます」とある。

このコロナ渦クラスター危機の中でも、開園祭に於て「神を神として」礼拝することが出来た。これは、全能の神の前に先ず静まって徹底的に謙虚にされ、今、自分が立っているところはどこかを知らされ、他者と共に生きる道は何処で何かを確かめさせられるのである。聖書は、全能の神はまた創造の神である。旧約聖書の冒頭創世記1章1節には「はじめに神は天と地とを創造された。地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり、」と告げる。即ち、混沌として虚しかったと言う。混沌はカオスと言う言葉である。地はカオス状態で、虚しく闇に包まれている中で3節、神は「光あれ」と言われた。「すると光があった。神はその光を見て、良しとされた。」というのである。光は闇に対して明るい、明るさは希望である。希望は未来を齎す生命である。

もうひとつ、モーセの「十戒」は、神が神として崇められ人間として人間らしく、隣人と共に生きる戒めであるが、「十戒」を示された神は、出エジプト記3章7節で、「わたしはエジプトにいるわたしの民の悩みをつぶさに見、また追い使う者ゆえに彼らの叫ぶのを聞いた。わたしは彼らの苦しみを知っている。」と言われる神である。

# 2020年開園祭

前号でご案内しましたように、「第44回開園祭」は、感染対策の観点からバザーや公開療育・ふれあい等を中止し、9月23日(水)13時30分から、地域交流ホールにおいて、ボランティアや勤続職員、ミットレーベン・ネットワークの永年に渡る支援への感謝を中心とした「感謝礼拝」が開催されました。当日は急遽、入所保護者会よりコロナ禍の中で働く久山療育園への感謝献金贈呈も加わり、利用者、保護者、ボランティア、職員が一丸となって現状を乗り越えようとする機会が改めて示されたように思えました。来年度は通常形式で多くの方に参加、来園いただける開園祭が持たれるよう強く願っております。(開園祭実行委員会)

## ボランティア表彰者

4000時間	古池節子 様
3000時間	野田紘美 様
2000時間	溝上敦子 様
500時間	氷室篤子 様



宮崎理事長からボランティアへの感謝状贈呈

## 永年勤続職員表彰者

(敬称略)

5年	10年	15年	25年
宮本幸子、山口優子	清水敦子、前田香織	今磯弘通、大谷美保	古賀クミ、嘉村由香、松岡芳和

石橋瑳織、印美帆、大里弘美、齊藤千尋、佐伯諭、佐藤有似子、潰田愛菜、長嶋奈美、花田京子、濱窪恵、原田美香、藤山知美、本田のぞみ、松元りか



勤続職員の皆さん



ミットレーベン・ネットワーク 田宮宏介牧師へ感謝状贈呈



岩永センター長より感謝の挨拶がなされました



村津保護者会長より職員への献金贈呈

## 勤続表彰者の声

7年程前、介護福祉士を取得するため、ひかり棟にて介護実習をさせて頂きました。それまで重症心身障害(児)者の方と触れ合ったことがなかった私にとって、一ヶ月の実習期間はとても意味のあるものでした。実習で担当をさせて頂いたM様の笑顔が忘れられず、そのまま面接を申し込み入職させて頂きました。5年経過した今でも、利用者様の下さる満面の笑顔は、私の元気の源となっております。現在、容易に外出できない状況にあります。落ち着いた時期には、利用者様や保護者の皆様と園外活動や久山町の盆踊りや運動会に参加し、一緒に楽しみたいと思っております。これからもよろしくお願いたします。

(めくみ棟介護福祉士 齊藤千尋)

この度は5年勤続表彰を頂きありがとうございます。入職当初はパート職員としてめぐみ棟からスタートし、職場復帰までのブランクがあった私は看護師として務まるのか、不安と緊張の多い日々でした。しかし、利用者様との関りの中でたくさんの方々のパワーをもらい、また多くの方々に支えて頂いたおかげで、次第に仕事が楽しくなってきたのを覚えています。その後外来を経て現在は通所で日々学ばせて頂いております。今後も微力ながら利用者様、そしてご家族の皆様にとってお役に立てるよう精進して参りたいと思っております。

(通所看護師 本田のぞみ)

# 44年のあしあと

運営協議会委員／元地域療育部長 窪田次男



## 久山療育園での在宅支援 (その3)

### 療育の充実に向けて

通園スタッフは基本的に入所スタッフと入れ替わっていました。たから、療育技術も入所のそれが多く用いられました。また、食前にいつも歌っている「日々の糧を」(讚美歌)は久山の最初のスタッフの一人である工藤克義氏の選曲です。入所でも通園でも歌われ、短期入所利用者もこの歌で食事の開始を意識することが出来ます。



### ①音楽療法への取組み

通園で始まった療育もありました。1996年に開始した音楽療法もそうです。これは在宅通園利用者のMさんに教えていただきました。きっかけは守る会の直方市支部が東京から音楽療法士を招いて行われたMさんの個人セッションを見学させていたことです。Mさんは動けず言葉も出せません。自分専用の座位保持装置にいつも座っておられます。セッションが始



まるときは血液循環がよくなって手は白くなっていました。30分の音楽療法が終わると白かった手がピンク色になっていたのです。音楽には重症児者を揺り動かす力がある！久山で音楽療法をやるろう！もちろん壁もあります。重症児者に対応できる音楽療法士がいまいません。尋ね試み訪ねまわってようやく音楽療法を指導していただける古賀幹敏先生に出会い、ご協力をいただくことができました。予算がない、楽器がない、そこで讀賣光と愛の事業団の助成をいただきました。音楽療法は重症児者療育の大切な療法のひとつだと思います。

### ②重症児者のサポートブック

お母さん達の悩みのひとつは病院受診や在宅支援を利用するとき同じことを何度も説明しなくてはならないことです。また大事なことを伝え忘れたときもあるそうです。通園スタッフを中心とした在宅重症児研究班で重症心身障害児者用のサポートブックを開発するきっかけでした。その方個人の医療や介護の情報が写真付きでコンパクトにまとめられ、葉書ホルダーで持ち運びしやすい形に出来上がりしました。しかし試作の段階では散々でした。医師からはこんなにくさん読めないと言われ、看護や介護職からは情報が足りないと言われ、医療編と介護編に分ける工夫をし、開発に4年かかりました。通園利用者にはサポートブックを全員作成し、お母さんからは、実際に手術で入院するとき大変役立つなどのご報告をいただきました。この研究で2008年度重症心身障害療育学会(会場：佐賀市)で努力賞をいただいたことは励みになりました。

### これからの重症児者通園

モデル事業は1996年4月に一般事業化されました。家族や関係者の熱意の中で生まれ、利用者とお母さん達に育てられました。その後、法律が変り通園の制度も変わりました。しかし、それを押し育てる力は変らないだろうと思えます。それに耳を澄ませます。その感性にも支えられており、今後さらに必要なのは組織(システム)で対応することです。高松鶴吉先生は療育について、療育は情念であり思想であり科学でありシステムであると言っておられます。これからの重症児者通園にも必要なことではないでしょうか。

# ボランティアだより

## ボランティア活動、再開しました

新型コロナウイルス感染症予防対策として、ボランティア活動を中止しておりましたが、一部再開いたしました。とは申しましたが、今まで通りの受け入れができるのだろうか、担当者会議で話し合い、「三密にならない」で活動できる方法を考えました。

- ① ボランティア活動内容や時間を限定する
- ② ボランティアバスは、間隔をあけて座る
- ③ 人数が多いときは、2つの部屋に分かれて活動する
- ④ マスク着用や活動前後の手洗い・消毒の徹底を呼びかけるなどです。

その他、これまでは4時間の活動でしたが、時間を短縮し、お昼までの2時間程度の活動としました。

再開の際には、久しぶりに来ていただいた喜びとボランティアの皆さんの明るい笑顔に、私たちも駆け寄りたい気持ちになりましたが、そこは「ソーシャルディスタンス」を十分に保ち、喜びを分かち合いました。



バス内も  
ソーシャルディスタンスを  
とっています。



8月に入り、中止した時期もありましたが、10月からは再度再開を考えております。中止している間にも、たくさんのお励ましのお手紙やお電話を頂きました。いつも久山に思いを寄せていただいていることを深く感謝いたしております。

これからも、ボランティアの皆さんのご協力のもと、「今できること」を模索していきたいと思えます。

(ボランティア委員会 陣内晶子)

## 歩 行 器

2020年、今年の開園祭はコロナ禍の中で規模を縮小し開園感謝礼拝のみとなりました。例年は入所者のご家族、教会等ボランティアの方々、近隣住民の方々をお招きし、入所者とふれあい、喜びの一時、お祝いの一日を過ごしてきました。多くの方々がこの開園祭を楽しみにしておられたことを思うと大変残念な思いがします。

その中であって、今回の感謝礼拝では保護者会の皆さんから「コロナ禍の中にあつて園のスタッフの働きに感謝の意を表すため」として貴重な献金を頂き、また園からミットレーベン・ネットワーク(旧「パプテスト心身障害児を守る会」)に対しこれまで50年にも及ぶ熱い支援に対する感謝状が贈られました。今から53年前の1967年「パプテスト心身障害児を守る会」が発足し熱い祈りと聖書のみ言葉によって9年にも及ぶ準備期間を経て、1976年9月この久山町に久山療育園が開設されました。設立に当たられた方々の祈りと尊いお働きを思うと感慨深いものがあります。

また、今年9月上旬に九州西方の沿岸を伊勢湾台風並みの巨大台風10号が接近するということで大変緊張しました。職員スタッフは前日から台風に加え、病棟の窓ガラスを段ボールや養生テープで補強し、その前面にはボランティア送迎バスを駐車し、強風に備えました。最接近が予測される9月6日夜からはセンター長はじめ多くのスタッフが泊まり込み、警戒するとともに7日早朝からの勤務に備えました。設備関係者は強風による電柱倒壊や断線による長時間にわたる停電を心配し、非常用発電機の燃料を満タンにするともに、予備燃料の確保に当たりました。宗像地区や糸島市では長時間にわたる停電が発生しましたが、幸いにも久山町では停電も無くホッと胸をなでおろしました。しかし、10月末までは台風シーズンが続く、入所者の方々、特に呼吸器使用の方々の命を守るために安心はできません。

10月12日現在、園内の入所者の中からはコロナ感染者が出ていません。医療関係者はじめ多くのスタッフの日々の働きによって、守られていると思えます。そして、その後には園創立から多くの方々の熱い祈りと共に神様の大きなお守りがあることと感謝しています。

(H・N)